



あすもりサポーター通信

秋のふれあい企画 この秋に行われた、全道各地区の「未来の森づくり ふれあい企画」をご紹介します。

北見地区 羅臼昆布加工体験と森づくり体験 2013年9月27日(金)

「森と海のつながり」をテーマに行いました。斜里町にある「北見イチイ 22 林木遺伝資源保存林」で林内を散策したり、鹿の食害防止用のネットを木に巻く作業を行いました。参加者からは「漁師さんが植樹する話をよく聞け、なぜだろうと思っていた。今日の体験で、海と森のつながりがよくわかった」とのコメントが寄せられ、充実した企画となりました。10名の参加者が、あすもりサポーターに新規登録してくれました。



函館地区 きじひき高原散策と木工体験 2013年10月5日(土)



北斗市のきじひき高原と、森町の北海道立森少年自然の家「ネイパル森」で行いました。きじひき高原はネイチャーガイドの金澤さんからブナの話聞き、散策しました。展望台はとても眺望がよく、オオタカが飛ぶ自然を満喫しました。ネイパル森の木工作業室では「木」を使う、触る、音を聴くなどを体験した後、鉛筆立てや調味料入れを制作しました。

大きくな〜れ！未来の森の木 〜知内未来の森に草取りGO！〜 2013年10月29日(火)

毎年植樹をしている知内町の「知内未来の森」で行いました。サポーターさんたちと一緒に、植樹した木が大きく育つように、冬支度を行いました。からんでいるツタを一本一本取り除いたり、周囲の草を刈りました。昨年、会場全体を鹿避けネットで囲って以来、エゾシカの食害はなくなりました。



旭川地区 突哨山散策と間伐作業 2013年10月14日(月・祝)



今年は送迎バスを旭川発着と赤平発着の2台にしたのが好評でした。赤平発着のバスは赤平〜滝川〜深川と回り、北空知エリアの組合員さんにもたくさん参加していただきました。カタクリの群落で有名な突哨山では、あすもり基金助成先でいつも交流している「NPO 法人もりねっと北海道」にガイドいただきながら、トドマツ林の間伐体験をしました。

南空知・石狩B地区 栗山の森の散策と収穫体験 2013年10月18日(金)

栗山町の植樹地はエゾシカの被害が多いため、ミズナラからトドマツへ樹種を変更しました。森林組合の方から、樹種変更の理由をくわしく説明していただきました。参加者からは「森が豊かになると、畑などの周辺の土地も豊かになるという循環の仕組みが納得できた」との感想が寄せられました。



帯広地区 トカプチの森〜音和の森散策 2013年11月23日(土)

午前中は「NPO 法人トカプチ」の協力で、音更町の「音和の森」で河畔段丘林や樹種について学んだ後、樹木ビンゴゲームやのこぎり引きを体験しました。昼食は明治時代の生活を体験できる古民家で囲炉裏を囲んで、焼きじゃがや五平餅などを食べました。午後は「帯広の森・はぐくむ」でツル伐り作業を体験し、伐ったツルをつかって、リースやランタンを作りました。森を身近に感じ、環境を考える人の輪が広がった一日となりました。



札幌西地区

喜茂別町の植樹地で、10月17日に草刈りの育樹作業を計画していましたが、大雨と台風接近により急遽中止になりました。鎌もそろえて準備万端でしたので、中止はとても残念でしたが、自然相手なのでしかたありません。来春には植樹を行います。サポーターさんや今回参加予定だった組合員さんは、春の植樹にぜひ参加してください。



「Fの森&むかわ回復の森」森づくりワークショップ — 2013年度報告 —



第4回 WS モリ・イクテラスからあすもりテラスを望む

2013年度のワークショップが無事終了しました。今年は昨年活動した当別町の「Fの森」に加えて、むかわ町有林の「むかわ回復の森」で森の手入れを学びました。今年はず、昨年のメンバーによって、むかわ町の森がどんな森かを見る「番外編」からスタートしました。笹の丈が低く、春の花が咲く美しい森という印象で、「親子で遊べる森にしたい」「炭焼きをしてみたい」などの希望が出ました。

今年6月の植樹祭で、昨年のメンバーは森のデザインの意図を伝える役割を持つスタッフとして活躍しました。第1回のワークショップは春の育樹会と一緒に5月19日に行う予定でしたが、雪どけが遅く現地に入れなかったため、札幌で植樹祭のミーティングを行いました。各バスにメンバーが乗って、森づくりの方針や樹種の選定理由などをお話するポイントや役割分担を話し合いました。

第2回からは新メンバーも加わり、7月6日に北海道森林整備公社が開催した「林業体験教室」の場を活用させていただいて、枝打ちと除間伐を体験しました。第3回はいよいよ、むかわ町の森へ。夏草の背の高さに驚きながら、懸命に森に入り、森の探索や除間伐体験を行いました。途中、NPO法人苫東環境 commons が管理する大島山林に立ち寄り、「守りながら利用する」持続可能な森づくりについて学びました。第4回は10月5日、「Fの森」で2014年度の植樹エリアとトレイルを検討し、札幌に戻って、植樹地マップを作成しました。

第5回は11月16日に札幌で、植樹エリアに植える苗木の樹種と配置の検討を行い、植樹プランの素案を作成しました。この素案が来年度の植樹のデザインのベースになります。植樹プランは来年1月25日の「北海道の森づくり交流会」で報告させていただきます。メンバーのみなさん、お疲れさまでした。



むかわ回復の森で除間伐体験

あすもり基金 助成団体紹介

(2013年度 小額助成)

飛生(とびう)アートコミュニティ

活動拠点/白老町

同コミュニティは閉校した旧飛生小学校の校舎を活用した共同アトリエとして1986年に創設され、現在は10名ほどの芸術家が制作活動を行っています。そのうち、アトリエに居住する2名の方が中心となって、美術教室やカフェの運営、飛生芸術祭などのイベントを行っています。

2011年からは荒れていた校舎裏の放置林を「再び、子どもたちが自然にふれあい、遊び、集える森として未来につなげよう」と飛生森づくりプロジェクトを始めました。森全体を時間と共に変化していく作品としてとらえ、「Tupiu」(トゥピウ)という黒い鳥がいる森の神話をコンセプトに、自然と人が共存できる森をめざしています。3年目の今年は6月～10月に計11回、笹刈りや枝払い、倒木処理、トーテムポールや小屋制作などの作業を行いました。作業には誰でも参加することができ、芸術家や森づくりの専門家、森が好きな人が町内外から集まり、汗を流しています。

ホームページ <http://www.tobiu.com/>



あすもり事務局から

「第4回 北海道の森づくり交流会」

—— 来年1月25日に開催

今回は森の活用について考えます。講演は岡山県西粟倉村にある「株式会社西粟倉・森の学校」代表取締役の牧大介さん。村役場と連携しながら、地域の森林資源を活かしたローカルビジネスを展開しています。TV会議システムを使い、全道7会場で同時開催しますので、お近くの会場で講演を視聴できます。くわしくは同封の案内チラシをご覧ください。

- 日時: 2014年1月25日(土) 13:00~16:00(札幌会場は16:30)
- 会場: 札幌、旭川、函館、苫小牧、北見、釧路、帯広
- テーマ: 森を活かせば、地域と人が育つ
- 参加費無料 申込締切: 1月14日(火)

あすもりのドングリマークを真ん中に入れたQRコードが出来ました。



携帯電話などのバーコードリーダーで撮影すると、あすもりのFacebookページを開くことができます。

<https://www.facebook.com/coop.asumori>

森の本

毎号1冊、森づくりに関するおすすめの本を紹介します。

「里山資本主義

共著: 藻谷浩介
NHK広島取材班
— 日本経済は「安心の原理」で動く — 発行元: 角川書店



固いタイトルですが、中国山地の山あいで暮らしぶり、自然の豊かさ、ゆったり流れる時間、里山の手入れなど、羨ましくなるような楽しさとおもしろさが描かれています。里山という身近な資源を活用するライフスタイルをどう実現していくか、これからのヒントを考えてみませんか。

NHKのオンラインサイト・エコチャンネル「里山のチカラ」で、藻谷浩介さんのお話を読むことができます。他の出演者のお話もおススメです。本書と合わせてご覧ください。

<http://www.nhk.or.jp/eco-channel/jp/satoyama/>